



生駒市立鹿ノ台中学校

第4号



校長室だより

令和6年7月10日

防災について考えよう

昨日は、「奈良シェイクアウト(災害に強い奈良県へ)」の県いっせ地震行動訓練に、本校も参加をしました。DROP!(まずひくく)→COVER!(あたまをまもり)→HOLD ON!(うごかない)の安全確保行動はできましたか?

去る6月23日(日)には、鹿ノ台校区の自主防災訓練を行いました。例年は11月に行っている訓練ですが、今年は6月と11月に校区自主防災会の方が中心となって2回開催することになっています。

6月23日の防災訓練では、体育館の避難所設営(簡易トイレ・段ボールベッド・間仕切りパーテーション等)の訓練以外に、鹿ノ台校区内の給水の仕組みに関する講話とその施設の現地見学が盛り込まれました。100人以上の方が参加され、フィールドワークにより、災害で最も重要なライフラインの1つ「水」について見聞を深めました。

さて、平成から令和にかけて、日本で発災した大きな震災のうち、直近の「能登半島地震(令和6年1月1日発災)」からほぼ半年が経過しています。この半年の間、被災された人たちはどのように生活されていたのでしょうか。



備蓄なし・朝食「せんべい」

これは、6月28日の「朝日新聞」の見出しです。今も約2200人が避難所生活を余儀なくされている中、半年を振り返った記事には、次のようなことが書かれています。

能登半島地震の発災の翌日から10日間、ある避難所では一人が1日に飲食できるものが「コップ半分の水、ピンポン玉一個分のおにぎり、せんべい1枚、焼き鳥の缶詰はごちそう」という記録が残っています。また、別の避難所では家族7人で乾パン5~6枚を分け合い、「餓死の恐怖を抱いた。」と語る人もいました。この避難所では、発災から5日間は食料を1日1回しか配れなかったそうです。避難所の食料は、日がたつごとに「乾燥米などのレトルト食品→握り飯→パン→弁当」と改善されることが多いのですが、能登半島地震では、輸送用の道路が寸断され、避難所にそういった食料物資が届かない期間が長引きました。段ボールベッドに至っては、多くの避難所が2月上旬まで設置が完了しませんでした。栄養に配慮した食事や段ボールベッドは命を守るために必要なのに、「ぜいたくを言うてはいけない」と被災者も遠慮がちにならざるを得なかった事情がうかがえます。トイレなどの衛生面でも課題が多く、健康な身体で入所したはずの人が、避難所生活をする中で、命にかかわるような深刻な健康状態におちいるケースもあります。

このような避難所の環境は、実は30年前の「阪神淡路大震災」とほぼ同じ水準なのだそうです。その時・その場所で想定外のことが山積みになり、「東日本大震災」を含め、過去の教訓を生かしきれないことがよくわかります。

自分の命の安全を確保したら次はどうするのか。けがをしてしまったり、逃げ遅れたりしたときにどうするのか。とっさの状況でもできるだけ落ち着くように心がけ、自分ができることを冷静に判断して行動しなければなりません。

「南海トラフ地震」は今後30年間で70%から80%の確率で発生すると予測されています。地震が発生したときにどうするのか、ぜひ家族でしっかりと話し合ってみてください。普段から「生命を守る」という心構えができていれば、突然の災害に対してもあわてないで対応できることと思います。



保護者の皆さまへ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

まもなく1学期が終わり、夏休みを迎えます。お子様にとって有意義な夏休みとなることを願っております。ご家族で過ごす時間も長くなります。自由に使える時間が多く持てるこの期間中に、お子様が何かに挑戦し、小さな目標であってもそれを達成した喜びを味わえる機会をご家庭で少しでも多く設定していただけますと幸いです。

※「学校生活の様子」を本校ホームページ>学校生活の様子>Xより随時アップしています。

